これか 戦時 たい またあの戦争を記憶に

全る学



平和の意味を問い、

伝えるための戦時版新聞

九九三年八月

羽島知之(新聞資料ライブラリー)

創刊:昭和19年3月1日~終刊359号:昭和20年3月31日 毎日新聞 戦時版

(大空社 1993 年復刻)

線、銃後の差別はない。 …増産は直接農村や工場に のばかりでなく、全国民の責任である。」

聞を発行し、あわせて用紙事情から窮屈になっている日刊 の結果、国家総力戦体制によって、工場、鉱山、農・山・ 日の「戦時版」の創刊である。日本新聞界は情報局と協議 価は一カ月七十銭。 新聞の購読需要を緩和させようと大手新聞社に要請した。 漁村などで働く、産業戦士を対象とした読みやすい小型新 政府の「要請」か「承認」があった場合にのみ、当番社が 体裁は各社とも同じタブロイド判四ページの日刊紙で、定 たが、夕刊もなくなり緊急事態にそなえ十九年五月には、 - 中部日本」、「大阪」、「西日本」の五社であった。新聞の 「共同号外」を発行するという国策が講じられた。 このような状況下で特筆されるのは、昭和十九年三月 一九年二月中旬この要請に応じたのは、「毎日」、「読売」、

問い直し、あらためて平和の意味を理解する上で極めて貴重なナマの資料で の弾丸」(紙弾)といっても過言でない。老若男女を問わず銃後の国民のす 俳句や川柳など文芸に至るまで、すべてが戦時一色、生産戦士に贈られた「紙 本紙用として追加供給を受け、戦時版の月極め購読者に対 限りで廃刊した。なお戦時版の割当用紙の二分の一担当を べてを戦争に狩り立てるための紙弾としての「戦時版」は、戦争とは何かを わめ、四月一日、一年一カ月で「戦時版」のすべては短い歴史を閉じている。 しては本紙をもって代替する措置が講ぜられた。 -新聞非常体制暫定措置」実施に即応して、三月三十一日 一十年三月下旬には九万三千部と三倍に伸びたが、政府の しかし二十年には戦局も一段ときびしくなり、用紙事情もさらに困難をき 創刊から終刊までのどの一紙をみても、記事から広告、連載小説やマンガ、 戦時版の人気はよく、創刊時の発行三万二千部は、翌 る。働き扱くことが勝ち扱く 戦争そのものに勝つことであ

昭和 19.3.1 第 1 号より⇒

⇒昭和 20.3.31 第 359 号より

ら寄せられた紹大な支持と聲扱し ったとの職時版に對して大方か らは本邦新田界最初の試みであ る。第一に、お

急迫化する戦局に即應して、わ

と望る



一戦時版の發展的解消

で、本戦時版の終刊は本土決 せざるを得ないのだ。その意味 見れば、右のやうな結論に到

とに對し心からなる感謝の意志 は昨年三月一日で、殿に時間的 った。だがこれは発育不完全の に見れば一年一ケ月の短命であ 表したい▲本紙が創刊されたの ための短句ではない。ただく 見ゆる機會が必ず到來するもの た再刊され、四び受演者諸君に 開ししかもなほ間母が終くとい 態勢に即應する光度的解的とも **ふことであれば、本晩時散も** いへる。微局がわれに有利に嵌

って終刊号とす ひとまづ本号をも

今や前線、銃後の差別はな 取はすでにはじまつてゐる。 関げた大戦争である。日米決 大東部戦争は最初の存亡を であり、國内は い。銃後も戦場 である。あらゆ 最大の戦闘基地 る生産の場は第 一線に直通して 機器村や工場に働くものばか

間でも置め、時局を知ると共 る。全國民が米、英麗波の場 りでなく、全国国の責任であ 新しく「戦時度」製作を工夫 としてゐたが、母紙とは別に なる平易な興味深い内容を脱 し、忙しい勤勞者が僅かな時 の希望に隠じ得ないのを遺憾 量に限りがあり、夥しき時間 産に全力を置さねばならな に明日の活動力を獲ふもとと 関しようとする本社は用紙の いのだ。この目標に向つて審 社の光楽とれに過ぎたるは 力完遂の一翼ともなれば本

葉言の刊創

るる。

生産、戦に勝つととは

役割を果したい。これが総 刊の日を迎へたとを喜ぶも **勞精神の糧を送る** する誘者の数にも自ら限り のである。とれによつて増加

が結ばれた。十九年に入ると新聞用紙の生産はガタ落ちし、各社とも朝夕刊 場合の印刷代行、共同新聞の発行など、非常事態に対する「相互援助協定.

セットの発行をつづけることが困難となり、全国いっせいに夕刊廃止にふみ

各社が個々に号外を発行することも、それ以前から日本新聞会が禁してい

亩

セラム、同盟がマレーを担当、十八年一月から各地で創刊された。

十八年十二月には大手五社間で、戦時災害を被り新聞発行が不能に至った

あり、朝日がジャワ、ボルネオ、香港、毎日がフィリピン、読売がビルマと

十七年秋には南方の軍政地域で日本語新聞を発行するよう軍当局の要請が

日刊新聞はわずか五十四社に圧縮統合させられた。 社の整備統合の方針を発表、一県一紙制を実施し、 日本新聞会が政府の指導のもとに設立された。内閣情報局は七月に全国新聞

一、二〇〇社近くあった

していった。戦時国内体制が進む十七年二月には、新聞の統制機関としての

昭和十六年十二月の太平洋戦争勃発以後、わが国の新聞事情は大きく変革

[大空社 1993.8 復刻]

定価(本体 48,544 円 + 税)

便命は、強用い上の成功を必 とに 塚大の眼目を置いた本紙の

挽はる人々の上氣を引める。そ によって軍動増産や食糧増産

めたと確値する。たから紙さ

時級もまた引煙き刊行してその

あれば戦争の難くかぎり本の



4-87236-845-2

eigyo@ozorasha.co.jp TEL:03-5963-4451 FAX:03-5963-4461 東京都北区中十条 4-3-2 (〒114-0032)

> 然度部されたからた▲節明度 るとどが、新田がについても 資材を以て境大の敬欲を発揮す 要を取めたからである。 最小の れら普遍報道陣も再整備する必

に内外の情勢を報道する。それ

ることに努力して、こゝに発

的の腧法を弄するのではない、 の戦時殿を基準として我田引 版化することだ。これはわれら 本土職場化の場合さへ考へね らう。既同は徐々財烈となり、 新聞によつてうけつがれるでも 少くとも概点の現券につい はならない。それはとりも正 ならぬやうに既迫して來た▲ **脚方針とは、 常然、 今後の毎** ず、一般新聞界を名実共に競問 もに一層決戦的なものになら な展別につれて、小学、形式 倫報道師も常然との概点の急 使命達成に適迎すべきであ た▲不紙は一瞬終刊となるが、 飛時版の総体的なありかたとい

一、中等學校以上の學」かせること

殊勳甲は五十一名

千九百名に金鵄勳章

非常措置の要領

その他の非常任務につ

子を挺身隊に強制加入

させるなど、國民動物をもつ

と徹底的に行ふると 三、防空を完全にするため、球

|生生徒をこの一年勤勞| 三、家庭の人以外の女

出張もなるたけ制限

П

関後の作戦準備中 振蕩しつゝ、更に

部を以て残敵を

十 和 83

昭和19年3月1日より

復刻版はタブロイド判

(約275×40½) です。

英印軍の大半を殲滅

ー 1 / 一 別東有国の商利以東

一 1 日 第 日 毎

本 馬相 人行長的印象開

二 三 内の丸 駅番割(3元 第〇〇八二京連座口金庁を被 たビルマ、インド國境にあるアラ

よる二月四日大攻撃の火艦を切っ

カン山脈の西マユ半島のプチドン モンドウ方面の英田事第七節題の

大本營發表(三月九日上28)一、二月九日以降英印軍第七師團主力 印度國民軍も大働き いが、近く輝かしい発表があるも た、一般界についてはまだわからな 包開戦はみごとに成功し、敵は全 く打ち降かれて今や残敵帰荡中と

緬甸方面帝國陸軍部隊は二月廿四日迄にその大半を殲滅し目下 を「ブチドン」西北方「シンゼイワ」盆地附近に包園猛攻中なりし 統一なく、わが軍はこれに乗じて 進撃の手をゆるめず薔薇してある るといふ始末で、敵の障害は全く はつてあるので、一数単にあるイン みな殺しにしたのである、しかも 山や谷を照り越えて進撃し、敵を が方は完賞の協力の下、けはしい ド兵は戦ひを嫌ひ續々降齢して邪 の独立をめざすインド國民軍が加 この概ひにはわが軍に限國インド 死にもの狂ひの抵抗をしたが、わ た敵は約三千で大雨や戦車などで

ファイン山脈

製油禁止の品目の範囲をも

るる品物は、必要なものはどしど 十三、役所や會社で保存して

(回 服 水)

勝つための政府の非常政策

我と協力大なる職

果を駆けつ」あり

二、印度國民軍も亦

、決戦非常指置原綱」は法る二月廿五日に政府

が廿九日発表された、要するにこれからの一年

と政府では思ひ切つたやり方をしようといふの は戦ひに勝つか預けるかの大切な時であるから

から発表された暇時政策で次の十五であるが、

十四の三つは一日からそれぐく実行されること

お役所の休

みは である とのうちの館七が五日から、第九、第十三、第

の発表が廿九日大本語からあつ一開用の輸送をやするこ 限し、その代り必要物資や陳 く同じにすること 閉鎖させるとし 七、高級料理店、待合は休養さ 八、旅行を徹底的に制 などは変てでしまふとと

また政治等一らにしないこと

つまり

+=

官職の休日は一

仕事の能率をあげるこ 週間に一回として一層

そして長い年月かくるやうな仕事 用が足りるやらにする 地方々々の緊聴などで もこの一年はなるべく や計画は一切やめるとと ナ、殿時にはいらないやうな、 ナニ、いままで中央の

出來るだけ早く行ふやうにすると 十二、蒸判所や検事局の仕事を

せ、また高級無行ものなどは一時一番い事は賞し思い事は れなかったやうなことを実行して行かうといるのもそと 役所でなければ許可さ、措置影響しを含めて、間々にとれ るため必要な手だてをすること れ、海上輸送をもつと通信に にわたつて十分な資界をすること 底的にやり、 もすべての対を職争に集中しなけ 五日十五個目からなる「決戦非常 ればならない、政府が去る二月廿 との一年ーゼの一年は何をおいて 罰するといふことを徹一と、また出張などやた 十四、雪雪 高級な享楽をやめさせる



トールヤ ルウバラ

月十八日機洲事変が起り翌七年三 【新京時電廿九日發』昭和六年九

けふ十二周年の式を行ふ

月一日澱洲三千万民衆は天意によ 九年三月一日には現 京をはじ

利のため作品するととを終つてる までもなく、この配念目を迎へ上 るととはたのもしい限りである ※京都下の本年第一回中等 學校 ス いよう〜小を一にして日本の勝 書受附始まる 中等學校の願

機を蒙した。ついでは七月午前にも敵は略性勝敗的機など延べ百五十八機をもつ

にかけ歌の韓郎選延べ十三長が数団にわたつてブカ島に來調したが、わが所在部隊はその三侵を曖昧 際は熾烈な對空砲火を浴せてその二機を撃墜した、わが方地上に多少の損害 計十一一機を確定は、

整爆五機、戦闘機二機計七機を撃破した、わか方いづれも被害なし 七接が一般回にわたつてマーシャル路島ヤルート島に攻撃を加へて來た、同島所在のわが部 【中部太平洋〇〇基地特電廿九日發】廿四日午後級の大型爆撃接近、八十 プカ島でも三機撃墜(南太平洋〇〇番地特質せ九日級)廿五日午前、午後 ことが第一である、第二囘の受附 ては、距離の違いところはさける され、それに歌国、歌客が新たけ 高女はいづれも続合男査制が採 登場してある、慰疫の選択につい の自己でクラルに別会会が記 七日までである、今年は公立中塵

今や前線、銃後の差別はな 戦はすでにはじまつてある。 でけた大阪型である。 日米決 大東部戦争は最適の存亡を い。銃後も戦場 機能村や工場に働くものはか る。全域民が米、英麗城の場 りでなく、全国国の責任であ 産に全力を置さればならな いのだ。との目標に向つて変

葉言の刊創 る生産の場は第 最大の戦闘基地 であり、風内は である。あらゆ

> 量に限りがあり、夥しき時間 関しようとする本社は用紙の

なるべく廣く行渡

大衆の便宜を贈り、 はあるが、特に勤勞

る方法を講じて決

方針である

なものはまた商閥をさせるといる

一年の無駄が二億五千萬圓

からだ、甘口宮中で贈かれた際しなどで高級なものは同 劇場や映書館、料理店、 た、そのうちわれく一般の民に 待合、カフエー、 享樂の停止」である、 もつとも関係のあるのは「一局級 酸ではまづ四つのことがきまつ

> る。働き扱くことが勝ち扱く ことである。しかも増産は直 戦争そのものに勝つことであ ある。

> 生産戦に

> 勝つことは

なる平易な興味探い内容を盛 間でも躓め、時局を知ると共 し、忙しい勤勞酱が僅かな時 新しく「戦時版」「戦作を工夫 としてゐたが、母紙とは別に の希尾に隠じ得ないのを遺憾

ない。

に明日の活動力を養ふもとと

力完遂の一要ともなれば本

から「國民勤勞動員器」と改名する

役割を果したい。これが総

社の光楽これに過ぎたるは

一線に直通して

億五千六百六十九万余円、麒場、 ら實施ときまつた。東 うもので、來る五日か ら一年休業させるとい 映画館の入場科六千四十万余円、 京都だけで昨年題の遊興総額は二 一百万機の飛行機がつくれるだけの 一百万機、戦闘機十五万円として1 金高である 映畫館も 高級な劇場や

合計三億余円といふ大金がつかは 、仮に爆撃機一台卅万円として 一 し、
。

さみくして

防

を上

危いと

こ 順場や映風館も高級なものは閉鎖 いない。

潜洋度印

酬ゆるは今ぞ! たゞ一路境産へ!

滿洲國の建國記念日

つて建図、図号を満洲國と定め、同 法が公布された、けふ一日はその 帝位につかせられ、満洲帝國組織 皇帝陛下が

> 社間 日本映画社 (日映特派員) ※軍報进班員

完成迫る

て二回にわたり攻撃を反復、わが部隊は艦載爆撃機九機、戦闘機三機 など延べ百五十四機がラバウルに來襲したが、同島にあるわが部隊は艦爆一機を撃墜、三 【ラバウル特置

甘九日發】

甘六日午前二同に

亘つて

敵の

艦載爆整機、

戦闘機 非常に協力をしてあるととはいる はれるが、大東部戦争と観洲幅が 的から十二周年にあたり、首都駅 地では記念式典が行

ラバウル來襲の敵機

帽鬪戰

ヤルート島いこにも來襲

たのに魅かされた、きいてみた

の人々の心の権とする、なは料理 を與へ、明日の働きに初が出るや一般の内容も歌ら國民に便会な娯楽 ところ一概全部を休架させ、必要 観や移動音樂などを奨励し、 うないゝものに変へさせ、移動流 店にもいろくくあるので、いまの

する誘者の数にも自ら限り のである。とれによつて増加 刊の日を迎へたとを喜ぶも ることに努力して、こゝに発

して來た國民職業指導所が今一日 **状戦戦力増强への重要使命に活躍** 職業指導所改名

戦下の生産域に勤

勢精神の種を送る

社 闘 斵 B 每

ことになった 般の會社も

日曜を返上

入場料五圓以上の高い ろにあるものは整理してしまひ、

段はやめさせるやら

にするが、それと同時に処

曜日返上など各工場ではすでにや とし、役人の出張も出來るだけや なし」と日曜日返上を決定した 社もこれにならつて「決戦に休日 つてゐるととであるから、一般何 對し、東京都商工経済會では、日 めることにきめたが、この決定に 日曜日に交替して休みをとると上 曜日休みをやめて三過間に一回、 廿九日の関戦で官器はけるから日

歐大佐はか官民代表多数臨席の下 並に委員長被職人事部第三届長重 納命名式は三月四日午後一時半か 第三日立法域号(艦上戦闘機)の武 に即式によって単行される ら日立市日立の館で海軍大百代型 日立茨城號獻納式

場の人の心が対一つだ▼ある り、工場もまた急に大きくなつ たために手が廻らないのかも知 いですむこともある。それは工 げるのに大して面倒などもしな は工限も満足し、その能率をあ 見たも少年工の両親が沿つてる 工場の少年工の寄宿舎に行って れない。ため、やり方によった 今に始まつたとではな かいがととに近頃は既倒 ある、 もちろんてれは 変に問題となって來て 労務管理が

この頃は大 士などが沢山工場に入 て、翌子兄切で仲よく話させ、 じ強に二酸でも三酸でも泊め れるのではなからうか、それで たちの面の使ひ方をなるでき らてくでは少年工の親や兄弟な あるの面倒や手敷などものの数 関係のお役にたつならは少しぐ といふ、とんな工夫は工場の人 職と人所を選びものが出て來る かけないで子供の短里から開 兄弟も 哲心、たいして手数な のださうだ▼子供治野べば親 させたり、東京の恩物をさせる 観は子供が聞いてるところを見 どが郷里から訪ねて来ると、同

ち破つて基地に帰った海軍が待ちわびてるた小狼に「やあお 古川海軍報道班員(本吐特派員)機能,海軍省許可済第四三号 前も元領か」とボッと一息したその時……南方〇〇基地にて 最前線のひとょき大阪県のあとで敵機敵艦を打

があつたのみ

した。わか方旗者なし

は十五日から廿四日までと決定

ではないのではなからうか。

関目開環省並びに強國局から

軍将長に関し一日論功

者は随の機驚沢田資中佐を初め総 群として殊動甲の優賞を賜はつた 開はつた光榮の勇士は横山明少将

ること

糧配給をもつとよくす

素簡單にすることと食

などを述かに地方にうつすこと 意思でない役所やクラブ、刑務所 開を一層徹底させあまり

四、生活をなるべく質

数五十一名の多きに及んである

ため利用すること

五、突地はどしく食物増産の

行動の御沙汰る事でら て確認人柱となつた陸 並に大興亞戦争に参加

賞行功論軍陸

し難々たる武動をたて以下千九百名で、うち武功特に抜 授き辺りでは支那事変・発表された、そのうち金銭動物を 的 島和伊度

大總9、

严息缓冲

島前

島大西。島古宮 島地石

(約275×40[™]」)です。

戦局の苛烈さに對應して、民間

とは変つた余計困難にものが



京東)社開新日報 ※並在者 人行政知识報報 (本二年 内心水 好可然代記者 (者〇〇八二京現底中全的著景)

(月出)後八・一六【月入】前六・〇一【あず自出】前五・三九】後八・一六【月入】前六・二九

ける限りで騰者諸君とお別れです。そとで最後の

響しろく冬のまゝなる山肌にの 取污

艦砲射擊激化

中島飛行機社長中島喜代一氏のところです。中島 国をとり上げました。太郎岩が駈けつけた先は、 問答には、太郎君が、いや全國民が、一番心にか 昨年の十月以來おなじみのセンベン 太郎 君も

かつてゐる飛行機增產に軍大関心のある國營の問

といる至上命令の遂行をしなけ 家も一緒になって、飛行機生産 おいてはひどすぎる、何とか國 だけにこの軍大衛任をまかせて

> たものを乗り切つて國が必要 出て來ます。だからさういつ

らないやうにするといふ方針に

中島その点でも現状より高 風があるやうです。

らはじまつたわけです。 ればならない、さういふ考へか

さとをこの顾客によって示さう

ては研究中ですが、とにかく現 る、といったやうなことについ

れにするが、手盤でこれだけや 決定してるます。本体はこれと

在の収入より図巻になったから

といって滅るやうでは土気に影

響して一大小です。

り手か。

太郎 風感になるについてと

行機をつくるのです。 といふのです。そしてうんと飛 いる気機へと軍機行政上の便利 本営に一体となつてやるんだと

社長は、大中島の総帥であるばかりでなく、明

一日から発足する州行機工協図祭の準備委員会委

敵愈~上陸の氣配 輸送船團 も亦近接 本島への艦砲射撃は日を逐つて激化してあ -Д.

> が、飛行機工器國營の狙ひと 太郎あらためて何ひます

… づけて行く後は胸のすくやうです。

て確保したい、ないる落切な 現実の必要から出発したもの

ればならない。だから世界中、

れでは何も國際など殊吏やる

殆ど姿らないやうですね。こ

りでなく、全國の飛行機工場 國営になる會社の従業員ばか 太郎 そとで、とんど最初に

ますか。

m経營の形なり 仕組みなりと

必要もないといふ意見もあり

ても自由奔放な民間経営でなけ

間答してある間でも、ひつきりなしにかゝつて來 **員長として極めて重要な多位な身です。太郎君と**

る儀話の前に突つ立つたまゝテキバキと仕事を片

くなる性質のものです。どうし 中に入ってるでは動きがつかな

> 制を想像しますと、現在の民 んど公布される航空工廠の官

繩沖

南西諸島沖繩本島に對する敵米軍

る、世五、合属一日平均約五、大百酸であつた 九日に至るや約七千酸によって敵がこケ月前確認向上 艦砲射撃は廿八日には約二千酸に激増、 た迅速さにおいてもまざくと彷彿される 腔用始に當つて展開した藍個射撃の攻撃がその数量においてもま

は、どうしても國家が必要と

論から出発したといるより い企業体制の改新といった理 いるものは、世間でやかまし

いふものは、非常に目まぐるし

それをこんど日本ではじめてや

り、増産の陰

路ともいつ

れから頻階ももつとひどくな

の収入より安くなるといふ心りにやりたい、むしろよくして

中島さうもいへ手が、と

なるとすればどうしても現在 るから軍の工廠なみに給與が は給與の問題です。國際であ

すが、とにかくこれも今まで通

資事情はだんく結婚になりま

中島
その点については、物 た物資の特配などはどうなり 太郎
今まで工場でやつてゐ

まが。

中島社長 一体飛行機工業と だけは顕然といふものがない。

だ、というとですか…。

かけましたが、どとにも飛行機 はじめフランスでちょつとやり

するだけの飛行機を何とかしがやる簡響といって一つの型のいったやうなこともいへますが
たものも従來

い進步変奏のあるもので、官吏 るわけで、それはいまあなたの

來た。敵が廿五日魔良間列島に兵力揚陸を開始し の上陸作戦はいよく本格化して

進め、いよくくその開始は目前に迫つた感

空部隊の南西諸島戦線への集結を妨害しつゝあつたが、その夏昭 たおいて 着々沖縄本島への 本格的上陸作戦を

を九州、関西近海に進め事ら艦上機をもつてわが航 接攻撃を一應控へ目にとゞめ、表面的には機動部隊 てより四、五日の間敵軍は南西諸島への新たなる直

がある、即ちの一つの兆候とて敵が目指す沖繩

出してゐたが、甘七、八、九日には九州、関西附近海町に 機動部隊、艦艇群の遙か後方に潜んでゐた はウルシー泊地、レイテ島等を發してより 第二にこの監領対撃とともに敵の相當数の輸送船関 炎上また

甘隻に

垂んとする

敬果を

擧げつ

ゝ せるものだけでも敵艦轟撃沈廿八隻、大破 船圏の近接は沖縄本島に對する敵上陸作成の近迫を終々と物部 終を襲じ州日に至るもなほ本上近海を游弋し 力は廿五、六日まで南西諸島附近海面に進 慶良間列島東南方海面附近に近接し來つた な戦果を收めつゝあり つてるるが、これに對しわが航 空部隊及び水上部 することも考へられてある、かくの如く監砲射撃の結束と除送 つゝある模様であるが、この行動はまた新たな機相を呈 いよ勇猛の攻撃を敵艦船に浴びせかけ相當 今や敵本格的上陸作戦逼るに當りいよ 特に必死必殺の特攻飛行隊は既に競表 極く最近においてはいよく沖縄本島

今こそ神機だ

我懐ろに飛込んだ敵

とわが湿力な活地勢力の説師物。でその兵站域に受する船間は約六、得る沖縄上陸作戦にこの空程節を上にある機動部隊は廿五日朝來那。やうな方針を衝撃局から発表した。二、朱國精機者の整備用地は林一等に助力させる |兵総線の火端に極る敵の飛端物域||ベリリュー、モロタイ等の各が地||方の飛力な反撃を明らかに梁線レ||微軍なのだ、との沖縄不路軍力器||流に攻闘させる方針で、卅日次の||宅等を報記する は今や明かだ、歌の兵が概はもは、歌刀を儲けついすべき最多な今まで、さきに急ぎ中航空窓によって高端。わが歌曲勢力の僚名に飛び込むだっている。 一登】敵の沖縄攻撃は果して開始さる。しかも物域の性格が異なるので來たことになるのだ 弱力なわが

抜地勢力に

四総された

は約一千万トンとみられる、

ヘワ |を伸び切ってある、敵の物理学数||持ちあぐんであた、いまどの陣機||した、しかし敵は別にサンディエ||以上投らの局地部関係勢主義はと |海上にある際は問題に上陸した数||集してゐるが敵の場合は物類以外||ツの有する全勢力を舉げて來送し 内域のであるからだ、伸び切つた一イから西カロリン諸島、ウルシー 諸島は九州、支那大陸及び台湾の 敵が太平洋殿域で使用し得る船肢 |確し得る一線がそこにある、南西|が來たのだ |の次の独ひが沖縄木島にあるとと|の何物でもない、全戦期員はとの| たとである、五十八機動部隊は れた、那那市の西方廿五マイルの一だ、わが方のそれには特攻滅が誕一第二に歐機動部隊は恐らくニミッ 【南方基地卅日藤田(藤)特波員【立場を巡轉する條件が競しつゝあ】ととになる、いはは様で飛び込ん

めに準備した兵力のうち四個部を に取跡ず帰送してゐるとすれば

滿を持すわが精鋭

の比束関係にいまや声び彼我の|百万トン、しかして沖縄作職のた

|開始を待つて土氣いよ|して放たす敵學滅の日|極略の新名をさえとする決象を|のだ、したがつて四層的の敵上級| 部隊は敵の本格的上陸「突厥気がつゝ末だ満を持一歌を作り、敵智性諸島を護し、皆りをおけて作戦に用ひるとになる」「扇鎌倉四朔の長行に飛行場を建して小烈機を推進せしめられた機動 いよ旺盛、徹底的繋砕一を今や遅しと待ち帯へ「紫紫、東近中央部に打造して來た「作動部隊は西カロリン諸島等の別が範型部隊は敵の機先を制してと「するとともに遠距離すり発通の大 際四語島に布除するわか。符合氏』述って帰郷化する歌の藍領研纂と「肚源軍主る鉄鷗を鳴んで左の如き「嬰とする、即ち輸送館取のすべて」在支米空運が確外東方約自五十十 | 東した、 敵は長行飛行場に主とし この輸送に四百万トンの鉛度を必|【大陸基地廿九日提報道班員級】||全庫を命中せしめてその使用を採 設使用中であることを偵知したわ一茶地として海上補給線攪乱を企同

島島阿

を目指して萬全の準備|てゐる、同方面際軍部隊を指

大君の辺にこそ死なめ丈夫の

赤き血しほに天地染めむ

「の際稱する船圏列車を用ひ得ない」をもつて同飛行場を急騰滑走路に、使用せんとしたものと見られる

殿域別に隊組織に編成し集團的に

を整へつゝあるが、日を揮する紫部隊長はさきに硫黄島の

らう、假りに一般に七十機を搭載 全勢力は十五隻を超え作ないでも 巡改裝空母を合しても正規空母の インデイベンデンス級一万トン瓜

ゴ附近を空母基地として第三およ |の機数をもつてしては決して十分| | 政府は大窓市防衛のため極力市民| | 帰機させ、 党信りその機耕地に近| 従事せしめるほか峻組織により村

長汀疆を急襲

選基地から作敵闘までの間に彼ら。れを粉碎すべく廿八日夜間爆撃機。| ファックは艦上機の不時滑場に | 一、蘇明者は原則として地域又は 名古屋市 疎開先 東海北陸 極地方、東海北陸地方の一部 阪神地區 疎開先近後地方、中 友 関東信威地方の一部 地方、関東信越地方

飛行機増産と國營

てゐます。 したいと考へ もらるやうに

ます。

配する金援動部隊を出し來つたの一場市を中心に沖縄本局に對して猛一依然として魔良田島上陸部隊を轍一の他の未利用地等で受入地の道 リンガエン、流黄島、南九州等の巡してれは従來にないととである、甘しくつて絕好の敗機であるが、事態 歐機動部隊は比島沖海戦、レイテ の有力空母を始ぎ移動してある。 | このやうに敵の沖縄作戦はわれに 「失層結構者に提供する ビックス級二万七千トンの制式に一敵はその密集隊形を疎開したが、 『説で少からず損耗してゐる、エ | 六日特攻隊の第一回攻撃によつて | は断じて軽視を許さない 然な監視対撃を総頼してゐるがそ一心とする作戦団を聴脱してゐない一概、市、町村、農業食物が借入れ 四、集開帰農者に對しては就勝

疎開者は村で 食糧の増産

集團的に歸農の措置

| 母祥を有してゐた、敬としてわが | ない望母勢力の使用に敵は極めて | 疎開した者は躁村に入つて食糧増 | とれを吹答するが、鬼かに断曷住 | 赤勢に臍殺させ、癖女子に祟して | 水第七の 両艦 隊に 配属させた空| とはいひ得ないであらう、十分で の離開を行はせてあるが、とれら | 在せる寺院、 図屋學校、 版合寺に | 内の各種機作業、 拠炭、松根油生 一、差徴り京濱地區、名古屋市及一野党、総跡地、工場建設、安定地で

ひとまづ本号をも 毎日新田戦時版は 一戦時版の發展的解消

ら寄せられた紹大な支持と発援 ったとの戦時版に對して大方か らは本邦新田界境初の賦みであ る。第一にお つで終刊号とす 表したい▲本紙が創刊されたの とに對し心からなる感謝の意を は昨年三月一日で、殿に時間の つた。だがとれは発育不完全の 急迫化する戦局に即應して、 に見れば一年一ケ月の短命でも ための短蛇ではない。ただく

見ゆる機會が必ず到來するも

と信する

をとであれば、

本般時限も 阻ししかもなほ戦切が終くとい

た再刊され、川び受演者諸君

聚被害者特別 一、復舊資金 一株 三十二路 貧 付 年公

、生產應急資金 一世界 五百円迄 年四分一回 無擔保簡易迅速ニ貸出取扱イタシマヌ 無民金庫大日本無無代理所 (1) 水道後所 (2) 水道後所 (3) 水道後所 (4) 水道後所 (4) 水道後所 (5) 水道後所 (6) 水道後所 (7) 水道 (7) 水 (7) 水 (7) 水 (7) 水 (7) 水 (7) 水 (7) 水

ふものを作ることになると思ひ 大臣が命名した新しい身分とい わけにはゆかない、そこで軍艦 工廠では軍属になってる手 なるととによって國家と結びつ 帰省所管ですから、 軍属といふ が、ところがこんどの國際は軍 言ますが、工質の場合は、軍の 中島 職員については官吏に 太郎従樂員の身分はどうな れら西線報道師も再整備する必

は農繁期の協同炊事、託見、救練 小連接、機機具の製作、修理等に 部を類、雑製、必需講菜の作的な 必要なる訓練を施し、右隣地の機 技能を投ぐるとと呼によりこれが び寝駒、蹇返等を行はせる、また歩 耕等の作業に集團的に従事せしめ 開新農者の労力はこれに適當なる **西面に活用する措置を講じ農村** るととが、新田界についても然 資材を以て最大の数料を発揮す 然思いされたからた人の明直の ず、一般新田界を名実共に競技 ばならない。それはとりも正さ もに一層決戦的なものになられ な展別につれて、内容、形式で 本土戦場化の場合さく考へねば らつ。限局は経々問烈となり、 た木紙は一脚終刊となるが、 めたと確値する。だから紙さく 挑はる人々の土象を吊める。そ に内外の情勢を報道する。それ 的の順法を示するのではない、 の戦時限を決定として我田引 ならぬやうに既泊して來た▲日 新聞によつてうけつがれるでき 倒方針とは、 常然、今後の征り 戦時度の総体的なありかたと記 使命達成に瀕災すべきであっ 時版もまた引煙き刊行してその 使命は、強的子の成功を収 とに塚大の眼目を置いた本紙の によって軍動増廃や食糧場所 要を取めたからである。 最小の いへる。微局がわれに有利に 態勢に即應する発展的解消とも で、本戦時版の終刊は不士決定 せざるを得ないのだ。その意味 見れば、右のやうな結論に倒 少くとも限いの現外について 敗化することだ。これはわれ 倫報道師も常然との職局の急渡 あれば脱印の軸ぐかざり木明

び阪牌地區の疎開先は次の通り 京濱地區 疎開先北海道、東北